

インドネシア 金融政策決定会合

景気回復への政策総動員を継続

2020年11月24日

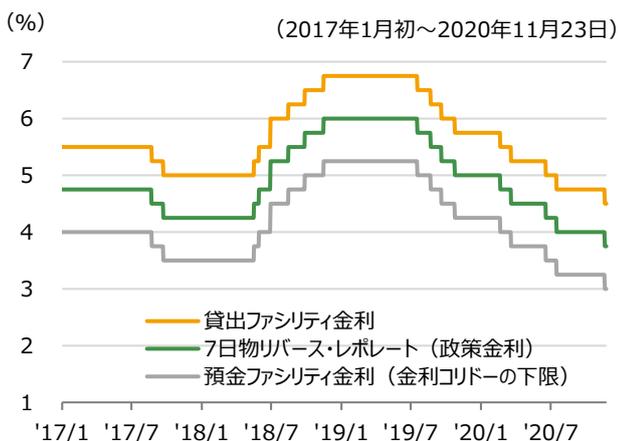
追加利下げの可能性を排除せず、非伝統的な金融政策の継続もコミット

11月19日（現地、以下同様）、インドネシア銀行（中央銀行）は、据え置きを見込む市場予想に反して、政策金利である7日物リバースレポレートを0.25%ポイント引き下げ、同指標が採用されて以来の最低水準を更新する3.75%にしました。また、為替相場の安定や、金融緩和の効果を高めるための金融政策運用戦略の強化など、経済・金融市場の安定化に向けた政策も発表しました。中銀は声明文で今回の利下げに関して、物価上昇率の見通しが低いことや、安定的な外部環境が維持されていること、国内経済の回復を促進するために追加措置が必要なことを踏まえたものと説明しました。

市場では今回の利下げについて、特に為替市場の安定が中銀を後押ししたとの見方が優勢となっています。インドネシア・ルピア（以下、ルピア）は、6月にコロナ禍前の水準近辺までルピア高となったものの、その後は緩やかにルピア安が進んだため、中銀は為替レートの安定に配慮し追加利下げを一時停止したとみられていました。しかし、11月に入り、世界的リスク選好の流れの中、1米ドル=14,000ルピア近辺までルピア高に戻したことで、利下げ再開の土台が整ったと考えられます。

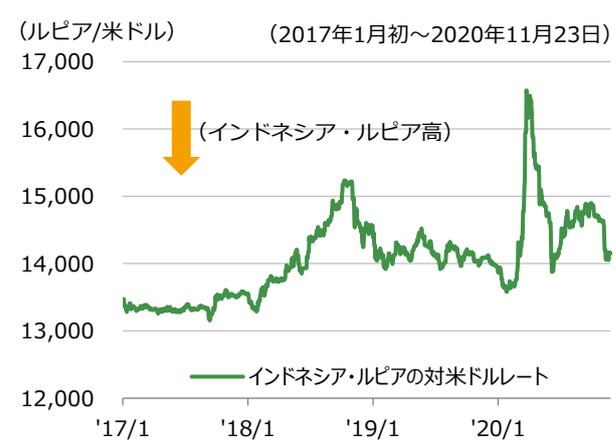
今後の政策金利に関して声明文では、国内経済の回復を促進するために、グローバル経済や金融市場環境、新型コロナウイルスの感染状況などをモニタリングして、必要な追加措置を取るとしました。足元は、ジャカルタを中心に新型コロナウイルスの感染拡大が再び加速し、景気回復が中銀の事前予想より緩慢になるリスクが高まっています。かかる状況の中、仮に利下げがあっても1回で打ち止めと一部の見方に対し、今回、中銀が追加利下げに含みを持たせ、非伝統的な金融政策の継続にもコミットしたことは、市場に安心感をもたらすと思われる。今後も金融、財政による政策総動員が維持され、その相乗効果が景気の回復と市場の安定に寄与すると期待されます。

インドネシアの主要政策金利



(出所) インドネシア銀行、ブルームバーグ

インドネシアの為替レート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。